

(別添4)

【福島県会津坂下町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

AIや学習分析技術、学習データの蓄積・分析により個別最適化した学びに繋げるとともに、学校間の切れ目のない円滑な引継や、職員の経験年数に関わらず、一貫性を持った指導計画の作成や効果的な共同学習の充実を図りつつ、校務DXにより、教職員の業務効率化や長時間労働を是正するとともに、より教育活動に集中できる環境を整えていく。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に導入した1人1台端末は、教職員や児童生徒が情報機器を利用する形での学習を開始してから徐々に活用方法を模索しながら、5年の間に、児童生徒が情報を検索し、収集・整理する学習やデジタル教材等を活用した個別学習に取り組む機会を提供することができた。

しかしながら、教師が授業中に児童生徒1人1人の反応を把握するなど、双方向型の一斉授業や児童生徒が同時に別々の内容を学習したり、個々の学習履歴を記録したりするなど、1人1人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習が十分に実施できていない状況もある。

今後、教職員のデジタルツールに関する研修機会を充実させ、児童生徒と教職員が主体的に学びあう双方向授業を実現できるようにすることが必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の整備・更新

計画的な1人1台端末の更新により、各学校へのICT支援員の配置や教職員への研修を充実させ、児童生徒向けのICT教育環境の整備を引き続き継続していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

1人1台端末は、教師の指導のツールとしての側面だけではなく、児童生徒同士がやりとりをする場面や、自分の理解度や進度に合わせて課題に取り組む場面等における端末活用を充実させる。学びやすさの提供や合理的配慮の基盤であることなど、学習者のためのツールという側面にも十分に意識をして、課題に向き合いつつ積極的な活用を推進する。

(3) 学びの保障

児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応として、ICTの活用や、対面指導・遠隔・オンライン教育とのハイブリット化による指導の充実に努め、不登校児童生徒への対応について、さらなる内容の充実を図っていく。